

高付加価値を生み出す人材を育成する

# 生産技術の応用・実践講座

2026年 **4** 月 **21** 日（火）開講

第3期生募集開始

# リーン生産（基本）× コア技術（差別化）× IT 技術（効率化）の掛け算で稼ぐ力を強化する！

本講座では、企業の大小、生技経験の多少を問わず、主に生産性向上・自動化の視点から、生技が果たすべき役割、勘所、潜在リスク等を、企画から生産までの実務手順に沿って分かり易く解説します。また、座学に留まらず、ムダ取りを徹底するリーン思想を体感できる演習等を通して新たな気づきと腹落ちを促し、職場での応用実践に繋がります。最後に、デジタル時代への備えとして、IoT 導入事例と手順を紹介します。全6回の講座を通して、一人でも多くのモノづくりの醍醐味、面白さを知る生産技術人材を養成します。

こんな悩み事はありませんか？

方向性

具体策

- ・人作業が多く品質も生産性も向上しない
- ・自動化したいが進め方がわからない
- ・投資効果が低く投資に踏み切れない

事を起こす前に

現状をトコトン見直す

- 作業改善：今のプロセスそのものにムダはないか
- 作り易さ：源流（設計）までアプローチ
- 最適化：力ずくの自動化を戒める

- ・手戻り、やり直しが繰り返し起きる
- ・設備立ち上げ時に必ず炎上する
- ・計画外の時間とコストが発生する

全体を見渡し

経験・知見を集約する

- 全体計画：プロジェクトの概要をまとめ共有する
- 大部屋活動：上流で関係者が集まり知恵を出す
- D R：節目毎に関係者で確認・修正して進む

- ・現場に移管後、生産効率が低迷する
- ・現場で何が起きているのかわからない
- ・IoT 導入を期待されるが経験なく不安

現場目線で

高稼働率を維持する

- 安定稼働する設備：今の現場問題を把握し設備反映する
- I o T 活用：データ分析時間を効率化し素早く改善する
- 全員参加の保全活動：各部署の役割を知り責任を果たす

講師 原田 浩史 氏

1980年 名古屋大学工学部機械工学科、  
1989年 スタンフォード大学工学修士課程  
経営工学課修士課程卒業  
1980年 日本電装株式会社(現デンソー)入社  
生産技術部にて工程設計、生産技術開発に従事  
1991年、2008年、2015年より計15年、  
北米デンソーへ出向  
2001年 生産技術部室長(主に電子系)  
2008年 北米拠点のDirectorとして北米生技・工機を統括  
2019年 帰任 産官学共同プロジェクト「LASI」講師と、  
Lean Automationスクールのプロジェクリーダーとして  
人材育成を推進  
2023年 退社後、引き続きリーン思想に基づくモノづくり支援活動を実施中



カリキュラム

リーン生産（基本）

×

コア技術（差別化）

×

IT 技術（効率化）

第1 単元 総論・イントロ

第2 単元 前さばき

第3 単元 自動化技術

第4 単元 設備手配・立上げ

第5 単元 保守改善・I o T

第6 単元 工場物流

生産技術の役割  
・ 工程開発  
・ 生産システム設計  
・ プロジェクト推進

リーンオートメーションとは  
自動化投資戦略  
LA推進の3ステップ  
・ 自動化前の合理化  
・ シンプル自動化  
・ 保守・改善

作業改善の基礎  
・ 山積み表  
・ 標準作業組み合わせ票

演習 I 手作業工程のムダどり  
レゴカーの手作業工程改善

部分自動化の進め方  
自動化マップ

演習 II 半自動の進め方

作り易い製品設計

組立技術の基礎  
自動化ラインの構成要素  
・ 部品供給  
・ チャック  
・ ロボット  
・ 検査/計測

合理化構想立案の進め方

演習 III レゴカー自動組立ライン  
構想（ボンチ絵）

自動化ラインの実際  
・ ビデオ工場見学  
設備仕様書の作成  
・ 設備計画書  
・ 加工能力指示書  
・ 工程能力指示書  
・ 加工条件書

演習 IV 設備仕様書の作成

設備仕様書の留意点  
設備総合効率と稼働ロス  
生まれの良い設備作り

生産活動の実際  
計画者が知っておく事  
・ TPM活動  
・ 保全力強化

演習 VI 稼働率計算

IoT導入の基礎  
IoT導入事例  
IoT導入の勘所

停滞のないシンプルな流れ

演習 VII 物流の可視化  
物と情報の流れ図

自動化前の物流前さばき  
自動化機器の導入  
総合まとめ  
・ Lean Automationの勘所

ディスカッション  
自社の目指す将来の工場像

参加者の声



現状の生産方式よりも、生産性の高い方式を作ることを目的に参加しました。自動化前の合理化、部分自動化の進め方の考え方など、方向性も見出すことが出来たので、それらの考え方を参考に改善を進めていきたいです。また、「物と情報の流れ図」を活用した工場物流合理化も非常に参考になりました。研修プログラムは、体系的にまとめられていてわかりやすく、グループワークでの実習も多くあったので理解がしやすかった。研修に参加して、新ライン立ち上げに向けてのステップが明確になりました。アウトプットのまとめ方も参考にしたいです。進めていきたいです。（K社T様）



「生産技術とは」「役割とは」といった内容を座学で学んだことがなく、明確にできていない中で日々の業務に当たっていました。研修に参加して、改めて自身の役割を再認識でき、今後の業務での問題解決の糸口になったと思います。研修のテーマの中では、ロボットフル活用、設備ライン構想のテーマが非常に参考になりました。研修プログラムでは、設備の立案から導入後に何をすべきかまで全体を通して重要なポイントを学ぶことができ、自身の業務を振り返ることができたことが大きかったです。また、こうしたい、こういうあるべき姿に持って行きたいという意見を出すきっかけにもなったと思います。（A社D様）

▶日程

第1单元：2026.4/21(火) 第2单元：5/26(火) 第3单元：6/23(火)

第4单元：7/28(火) 第5单元：8/25(火) 第6单元：9/29(火) 全6回

▶時間 各日 10:00～17:00

▶定員 15名

▶会場 中産連ビル(名古屋市東区白壁3-12-13)研修室

▶対象 自動化・IoT活用を推進していきたいと考える生産技術者、担当者

「生産技術の応用・実践講座」参加要項／参加申込書

参加費 (1名様)	中産連会員 220,000 円 (税込) / 中産連会員外 253,000 円 (税込)
申込方法	下記申込書に必要事項を記入の上、切り取らずに FAX(0120-342-740) にて お申込みいただくか、中産連ホームページ (www.chusanren.or.jp) よりお申込みください。 ※前日・当日のキャンセルはご容赦ください。ご参加者のご都合が悪くなった場合は、 下記担当者までご連絡ください。 ※コンサルタント及び教育機関の方のお申込みはお断りしております。ご了承ください。
お支払い	請求書・受講票を開催日2～3週間前に申込責任者宛に発送いたします。

所属部署・役職	氏名 (フリガナ)	メールアドレス

会社名			
住所	〒		
申込者 責任者	所属・役職名	氏名	
	E - m a i l	T E L : F A X :	
会社概要	業種 (主要製品名)	資本金	従業員数
	今回で記入いただいた個人情報は、研修等の運営・情報提供 (郵便、メール、FAX 等) においてのみ使用致します。 詳細は、HP( <a href="http://www.chusanren.or.jp/14privacy/privacy_policy.html">http://www.chusanren.or.jp/14privacy/privacy_policy.html</a> ) をご覧いただき、同意の上、ご協力お願い致します。 関連情報の提供が不要の場合、下記にレ点をご記入いただき、当連盟までご連絡ください。 <div>□ セミナー等の情報提供を希望しない</div>		